

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0390900082		
法人名	NPO法人ケアセンターいこい		
事業所名	認知症高齢者グループホームいこいの華 (A棟)		
所在地	一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	平成23年10月26日	評価結果市町村受理日	平成24年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900082&amp;SCD=320&amp;PCD=03">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900082&amp;SCD=320&amp;PCD=03</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所して2年目を迎え徐々に地域に密着したホームになってきています。ホームの敷地内にあるコミュニティセンターは、まだまだ地域の方には浸透していませんが、運営推進会議等を通じてアピールをしております。  
入居者は、ホーム敷地内にある畑で、野菜作りを行い、収穫を行うことにより生きがいを見出しており、また、周辺のお散歩、リハビリ体操などを行い、機能低下の予防に努めています。今後ますます職員が一丸となって入居者の皆様がより一層満足できるホームを目指して努力していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

スプリンクラーが設置され、警備保障会社との契約もあり、安全確保を高めている。職員はほとんどが地元採用で、道路を挟んですぐのところに住んでいる職員もおり、3月の震災時にはすぐに駆けつけている。また、事業所が所有するコミュニティセンターを地域に開放する等、地域との交流が図れるよう検討を重ねている。  
訪問時は利用者の皆さんでバレーボール的なレクリエーションを楽しまれていた。普段の日常生活ではあまり使うことのない筋肉を動かすこともでき、利用者の皆さんにとって良い刺激になっていた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を各居室、ホールに掲示しており、入居者、家族、職員等が常に見られるような環境を整備している。	法人と共通の理念を利用し、ホーム内に利用者、職員、来訪の方の目に付く場所に掲示されている。事業所独自の理念は作られてはいないが、利用者の個性を考慮し、体調管理、安全に気をつけ、事故が無いように配慮されている。	運営理念を実現するため、どのように日常生活の中で取り組んでいくかを職員間で話し合い、目標を定めることで理念がより具体的なものとなることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において、地域との合同の避難訓練を行い、交流を深めている。今後、避難訓練以外でもホームに来所しやすい環境作りをすることが課題である。	コミュニティセンターが踊りの練習や、救命講習に利用されていた。震災の影響もあり、今年は夏祭り等は自粛されたが、避難訓練で地域から協力をいただいている他、来年は地域の方を夏祭りに招待することを企画しており、今後の交流に期待が持たれる。	介護教室や、高校生の介護実習の受け入れ・夏祭りなど今後の地域に向けた取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体でサポート教室を開催している。ホーム周辺の方には参加が難しいため、ホーム独自にサポート教室の開催を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に、避難訓練の開催等の話し合いが中心であるが、他に参加したご家族からもケアに関する意見を頂き、サービス向上につなげている。	市役所支所から参加をいただき、利用者や家族を交えて会議が行われており、毎回、ほぼ同じメンバーが参加されている。年に数回でも警察・消防・花泉町の保健師等の参加により、より多くのご意見やご指導がいただけることが期待できるので、検討されたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、担当課の職員が参加している。ホームの運営に対して意見を頂いている。	一関市(花泉支所)高齢福祉係長が運営推進会議に参加されており、町内の行事など地域情報の提供がある。また、震災時には毎日様子確認の訪問があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への研修会に職員が参加している。帰宅願望が強い入居者様に対しては散歩の付き添いなどを行い、玄関の施錠をなくすようにしている。	身体拘束の研修会に職員が参加し、ホームでは職員会議の場で勉強会が行われている。事業所周辺の交通量がやや多いため、やむを得ず施錠する場合があるが、夜間を除き普段は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加している。今後職員会議等にて認知症についての学習会を開き、より認知症に対する理解を深め虐待防止につなげていきたい。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用する入居者はいないが、法人の全体会議にて勉強会を開き、管理者が職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、ご家族と一緒に契約書を読み合わせ、ご家族の不安な点をお聞きし、安心して入居ができるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三ヶ月に一度第三者委員会を開催している。法人内の施設に対する苦情、要望の分析を行い、施設運営に反映させている。	法人内で理事長、幹部、各事業所の代表、家族が集まる第三者委員会が行われており、家族からの要望などについて3ヶ月に1度話し合いが行われている。また、家族が来所した際に職員が状況説明を兼ねて話を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回リーダー会議を開催し、各施設の問題を持ち寄って検討している。	月1回、事業所内で行われる職員会議の際に意見が出され、利用者の転倒防止、事故防止についての対応や職員の勤務体制等の意見について対応策が話し合われている。また、職員の意見や提案を月1回、定期的に法人内のリーダー会議の中で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	事業本部の人事課と労働時間等を相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加している。後日研修内容を職員会議で全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会に参加し、他ホームとの情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に病院や自宅など本人の所へ出向き、状態を把握している。入所前に職員全員が本人を把握するように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、又は入所前にご家族へお会いして、不安などを把握して、ニーズに沿って援助ができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に応じて、ご家族や本人と話し合いを行っている。必要に応じて居宅ケアマネにも情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの仕事を手伝っていただいている。家事仕事やホーム敷地内にある畑での収穫の手伝いを行なっていただいている。常に「生活」を意識して援助を行なっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ本人の状況、状態を報告し、また、ご家族からの情報、意見等を提供頂き、お互いに連絡を取れるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た方へ、また面会に来て頂けるように本人がとても楽しみにしていることを伝える。月の行事にドライブを取り入れ、入居者様のなじみの場所をドライブのコースに取り入れるように心がけている。	利用者が生活してきた地域へ訪問をしている。体の機能低下により外出が難しくなっているが、積極的に外に出るように心がけており、短時間でも外出することを勧めている。月に1度ドライブが企画されており、利用者が望む場所へ出かけている。家族と外出することもある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や得意なこと、好きなことを把握し、個性をもってレクを行っている。全員揃ってレクを行うことは難しいが、無理なく生活ができるよう努めている。 入居者同士の相性もあるため、座席等の配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、入院時にはサマリーを通して情報提供をしている。自宅、特養等への面会などにはいたっていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と多くコミュニケーションをとるように心がけている。意思疎通が難しい入居者に対しては本人の表情などを観察し、思いを読み取るようにしている。できるだけ入居者を待たせる事なく、その場で対応している。	家族からの生活歴の聞き取りを行い、その人らしい楽しみの持てる生活ができるよう支援している。利用者本人が「役に立ちたい」という気持ちを汲み取り、職員と一緒に洗濯物のたたみ方や、畑仕事、炊事の手伝いをしてもらっている。声掛けだけではなく、利用者の様子を観察し、行動から何をしたいのかを読み取ってサポートが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの居室を安全かつ安心して暮らせるように職員皆で検討し、また、ご家族とも話し合い環境づくりに努めている。 本人が使用する食器等も使い慣れたものを使っていたくように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に事前訪問を行い、入居者の情報収集に努めている。入所後、ケアをしていく中で問題点を朝、夕のミーティングで検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にはご家族に現状をお話し、ご家族の希望を把握し、ケアプランに反映するようにしている。	面接時や運営推進会議の際に家族から意見を聞き取り、職員間でも話し合いを持ち、プランの見直しが行われている。基本的に3ヶ月毎に見直しが行われる。利用者の様子は朝夕の申し送りの際に職員間で情報が共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンを利用し、職員がいつでも介護記録を見れるようにしている。毎日、朝・夕のミーティングの際に問題点を検討するように心がけている。ご家族にも必要に応じて介護記録の開示も可能である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて特養、老健等の介護保険施設等を紹介している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、地域との協働は避難訓練のみとなっている。今後、運営推進会議を通して地域の行事等の参加を検討していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に在宅時のかかりつけ医の受診をしている。入所後必要に応じてかかりつけ医の変更や専門医の受診を行っている。診療情報提供表を利用し、連携を図っている。	家族が通院を行うのが基本だが、家族が対応できない場合は職員が対応している。急に他の病院を受診する必要がある場合は、診療情報提供によりスムーズに受診が行われるよう援助している。可能な限り利用者が利用していた病院等を利用しているが、対応することが難しい場合はかかりつけ医を変更してもらう場合もある。必要に応じて職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置と訪問看護の利用は行っていない。かかりつけ医に受診時に状態の報告や必要な検査をしていただくようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の時はお互いに情報交換を行っている。入院した際は、定期的に職員が面会に行き、情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置がないため、医療行為が出来ない状態であり、必要に応じて特養、老健等の申し込みを勧めている。また、介護度が高い方には、万が一に備えて、特養、老健の申し込みを行っている。	終末期の対応が難しいため、重度化した場合は利用者の状態により特養の入所等が支援されている。法人としては特に終末期に関しての取り決めは無い。全く対応しないわけではないが、研修を受けたり検討が行われたりはしていない。	入居時に本人や家族の意向を確認し、グループホームで出来る介護、出来ない介護を説明し、方針を共有することで本人の意向がより尊重された介護が行われることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。夜間の急変時はまずは、管理者へ連絡をし、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。災害時は法人全体で支えあうよう連携を取っている。	年に2回、避難訓練を行っており、6月と10月に消防や地域の方々の参加で避難訓練が行われた。通報装置、スプリンクラー、消火器等の設備が完備され、ユニット毎に外部への脱出路が確保されている。地域の方で災害時に協力していただける方の名簿作りを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人及び家族の了承を得て愛称で呼ぶ時もあるが、尊厳とプライバシーを傷つけないように言葉かけに配慮している。	トイレなどの声掛けは、利用者のプライバシーに配慮して行われている。また、出来るだけ待たせることなく、すぐに対応するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との信頼関係を構築し、自分の気持ちを素直に表現できるような雰囲気作りが心にかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、入居者との会話の中で、希望をお聞きし、天気がよい日は畑に行き野菜の収穫をしたり、散歩をしたりと入居者に合わせて活動を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食後の歯磨き、髭剃り等の声かけ、援助を行っている。日常着に着替える時は、本人が着たい服を選んで頂き、おしゃれに興味を持って頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との会話や、食事の摂取状況を見て、入居者一人ひとりの嗜好を確認している。お茶の準備や、茶碗拭きは、職員と入居者が会話をしながら、行なっている。	皮むきや、野菜の切り方、料理の味付けの確認等、職員と一緒に食事作りが行われる他、利用者の好みを聞きながら献立を作成している。片付けを手伝っていただいた利用者には、丁寧に感謝の言葉が伝えられていた。利用者の状態に合わせ、スプーンの形状や、とろみを付けるなど配慮が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が、入居者の食事摂取量を把握し、食事量が少ない方には、主治医に相談して高カロリー栄養食を処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアは徹底されている。できる限り自分で行なってもらい、磨き残しは、介助をしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツを使用しないケアを実践している。できるだけ自尊心を傷つけないよう、様子を察知してトイレへの誘導を行なっている。	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握している。また、利用者の様子を見ながら声掛けを行い、適時誘導をしている。夜間は寝る前にトイレを済ませているが、利用者によっては誘導を行ったり、ポータブルトイレを用意している場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便の管理を行なっている。必要に応じて主治医から処方された下剤等を服用している。乳製品を飲んでいただいたり、散歩などの運動をしたりと便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行なっている。バイタル測定をして、熱発などの体調不良の方には、清拭や陰部洗浄を行ったりと清潔保持に努めている。菖蒲湯などを行なって季節感を味わっていただくように援助している。	月・水・金・土曜日のうち、週2回、午前中に1日4、5名に分けて入浴している。毎日入浴したいという要望は特には無い。入浴を拒否される場合は無理には入浴させず、穏やかに誘導されている。利用者個々の希望を確認し検討することにより、利用者がより満足して入浴することに期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息が必要な方には、居室で休んでいただいている。夜間も全員一緒に就寝ではなく、個別性を持ってその方に合わせて就寝介助を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局や病院から頂くお薬の説明書に全職員が目を通して、入居者一人ひとりが飲んでる薬について把握している。必要に応じて、職員から主治医に状態報告をして、薬の調節を行なっていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、ビデオに合わせて体操をしたり、洗濯物をたたんだり、入居者一人ひとりの能力に合わせて機能維持に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がよい日は外に出て外気欲をしたり、散歩を行い、できるだけ外に出るよう援助している。また、月一回ドライブを企画し、入居者のなじみの場所を見ていただくように配慮し計画している。	落ち着きのない時は外に出かけることで、気分転換が図られている。紅葉見学など、その時々季節に合わせて、ドライブに出かけている。天気のよい日には周辺を散歩したり、ウッドデッキで日光浴している。買い物等外出の要望がある場合は、職員が同行して対応している。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームいこいの華

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、トラブル防止の為に少額のお金を持っていただいている。管理ができない方は、ホームでお金を管理して、必要時にいつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力により、電話をかけたいときにかけられるように支援している。 手紙に関しては、年一回年賀状を出すのみとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るなど、入居者が季節感が味わえるように工夫している。	大きな窓と広い通路が確保されており、全体的に明るく、暖かく感じられる。ホールには神棚、広いテーブル、畳の小上がりが用意されている他、利用者の皆さんの写真や作品が飾られていた。また、トイレから、直接ダストシュートによりパット等を捨てられることで、清潔が保てるよう設計されていた。2つのユニットの間には共用の玄関と事務所が設置されているが、内壁にガラスが用いられており、ユニット双方と事務所内からお互いの様子を確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を置くことにより、一緒に洗濯たたみ等の作業をしながら、入居者同士や職員とのコミュニケーションの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたものを持ってきていただくといったなじみの物を居室に置くことにより入居者が安心して生活をしていただいている。	居室にはエアコンが設置され、テーブルや椅子・ベッドが設置されていた。必要に応じて入れ替えることができるが、布団を利用する場合は持ち込みが必要である。テレビや家族の写真・お気に入りの椅子などを持って来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には案内札を、居室には、個人名の表札をかけることにより、誰が見ても場所がわかるように配慮している。		